

平成 30～31 年 (2018～2019) 年度、募集を開始した奨学金 (就学資金) 支援制度が下野新聞に掲載されました。

今年度は 2 名の応募があり、審査の結果 2 名を奨学生に決定しました。高校合格をもって確定します。

## 「子どもの貧困」で真岡RC



修学資金給付制度の創設などが発表された記念式典

## 修学資金給付制度を開始

### 中3対象、年5万円3年間

【真岡】本年度創設60周年を迎えた真岡ロータリークラブ(RC)は記念事業として、経済事情が厳しい家庭の中学3年生を対象に、年間5万円を高校2年次までの3年間給付する返済不要の修学資金給付制度を始めた。未来を担う青少年育成の観点から、「子どもの貧困」に着目し創設した。RCによる同制度は県内でも珍しい動きだ。(小玉義敬)

県立高では授業料が無償化されている一方、制服や自転車など、修学に必要な

物品を購入するのに各家庭が負担する費用は少なくない。市内の高校に通う生徒の中にも、経済的理由から修学旅行に行くこともままならない状況があることを踏まえ、費用の一部に

同制度は7月に創設。「子どもが1人の場合の親の収入額が年139万円」といった収入基準額に満たない世帯に属し、市か芳賀、市貝両町のいずれかの中学校に通う3年生が対象。年間10人を募集し、本年度は9月未だで募集を行い、2人が決定している。毎年3月に給付する。

真岡RC奨学金委員会の市村忠夫委員長は「授業料以外にも何かとお金がかかる。自転車などの購入費に充ててもらえれば」と話す。高校1年次には制服や自転車などの入学準備金に、2

年次には修学旅行などの費用に、3年次には受験や就職の費用としてもらうことを想定する。

一方、創設60周年記念式典が台町のフォーシーズン静風でこのほど開かれ、会員や近隣市町のRC関係者ら約200人が出席。真岡RCの久保康夫会長が「世界中のプロジェクトに参加できていることに感謝の気持ちを抱きましょう」とあいさつした。

修学資金給付制度のほか、10年前に創設したロータリー文庫の補充のため市と芳賀、市貝両町の小中学校に、総額150万円相当の図書券を寄贈したことなどを発表した。

# 県央・宇都宮版

ENJOYING ENJOYING ENJOYING